

令和5年度学修成果の達成状況等調査結果について

I. 調査時期、対象者数

1. 調査時期：令和6年1月下旬～2月上旬

2. 対象者：令和5年度在學生（休学者を除く令和6年2月時点での在籍者）

表中の略称について
 NS：看護学科
 CW：医療介護福祉学科

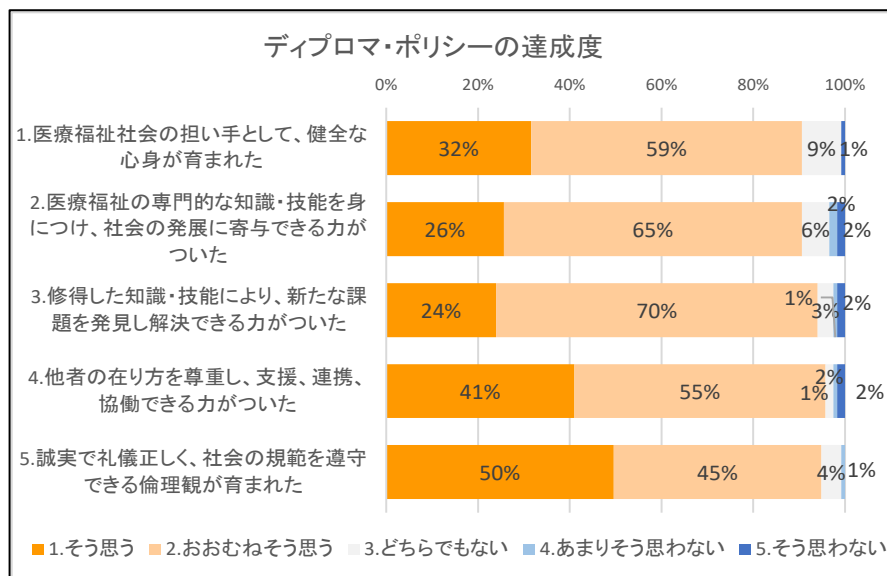
対象者及び回答数

	看護学科				医療介護福祉学科				合計 (内卒業予定者)
	1年次生	2年次生	3年次生 (内卒業予定者)	学科計	1年次生	2年次生	3年次生 (内卒業予定者)	学科計	
対象者数： 人	91	107	137 (116)	335	10	12	13 (11)	35	370 (127)
回答者数： 人	83	101	109 (109)	293	10	9	8 (8)	27	320 (117)
回答率： %	91.2	94.4	79.6 (94.0)	87.5	100.0	75.0	61.5 (72.7)	77.1	86.5 (92.1)

II. アンケート結果および分析

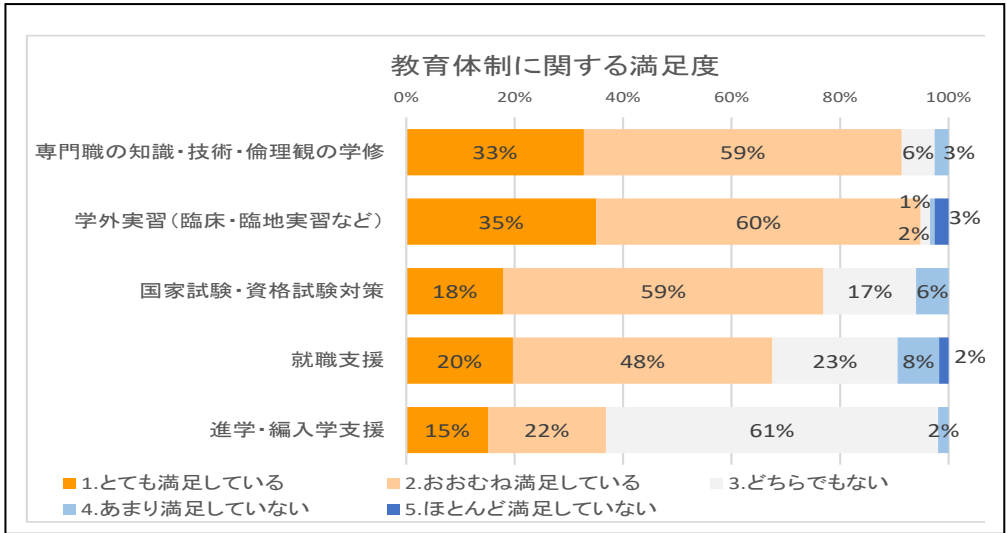
1. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）達成度（3年次生のみ）

令和5年度は、医療介護福祉学科が3年制に移行後、初めての卒業生を迎えた。ディプロマ・ポリシーの達成度は、構成する5つの方針に関して「[そう思う]」「[おおむねそう思う]」と答えた学生は、91%を超えており例年と変わらず高い結果となった。今年度は、「他者の在り方を尊重し、支援、連携、協働できる力がついた」や「誠実で礼儀正しく、社会の規範を遵守できる倫理観が育まれた」が高かった。



2. 教育体制への満足度（3年次生のみ）

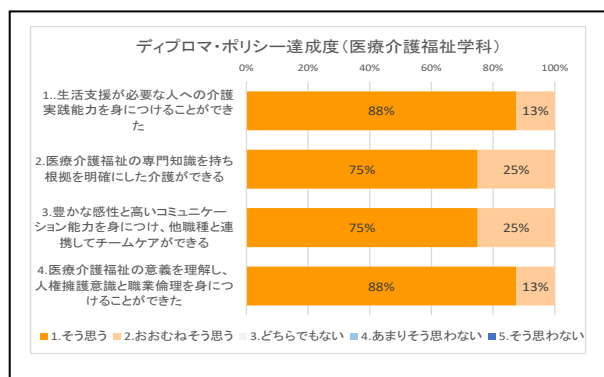
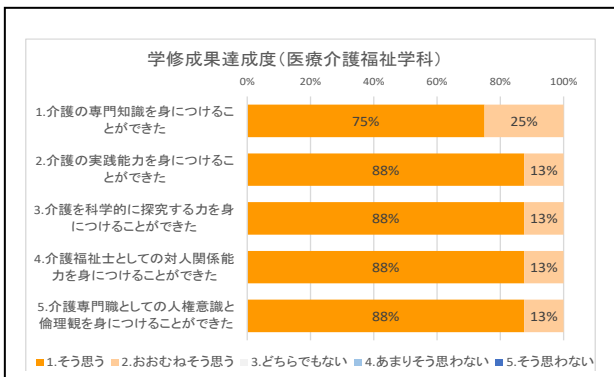
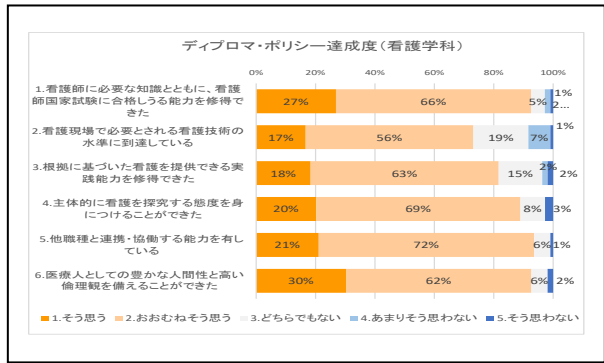
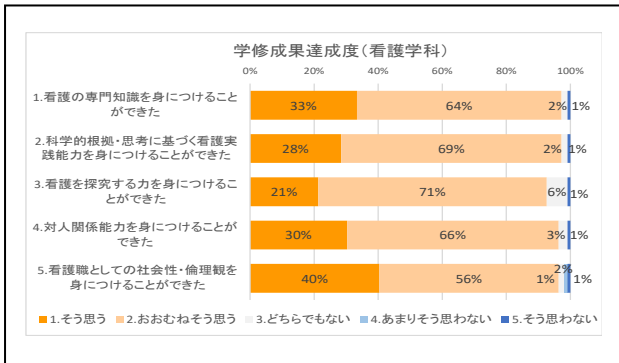
「専門職の知識・技術・倫理観の学修に関する教育体制」「学外実習（臨床・臨地実習など）の教育体制」に対して、「[とても満足している]」「[おおむね満足している]」と答えた学生が90%を超えていた。



3. 学科の学修成果及び学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)達成度(3年次生のみ)

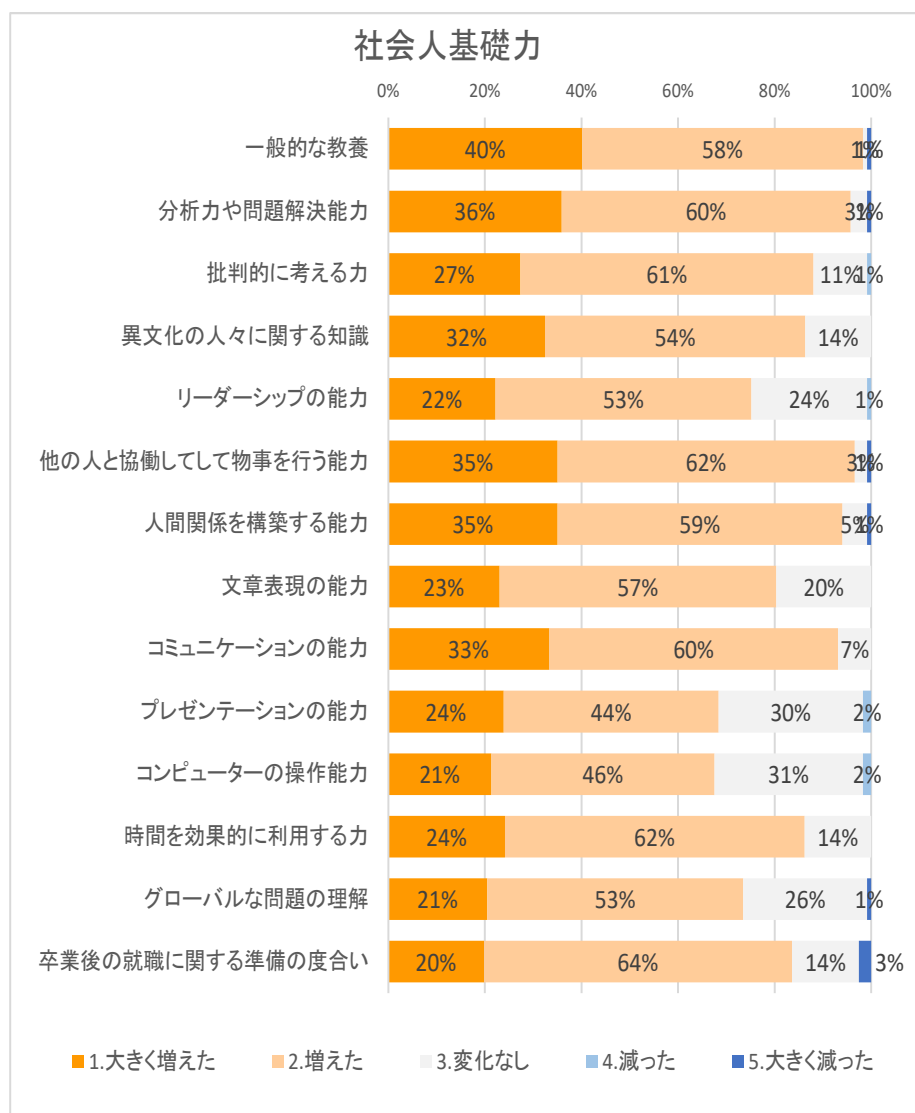
各学科の学修成果を達成できたかという質問には、「[そう思う] [おおむねそう思う]」と答えた学生が看護学科は92%を超えており、医療介護福祉学科は全員であった。

各学科のディプロマ・ポリシー達成度では、看護学科では、「看護現場で必要とされる看護技術の水準に到達している」に、「[そう思う] [おおむねそう思う]」と答えた学生が73%であり、5項目の中で最も低かった。一方、「看護師に必要な知識とともに、看護師国家試験に合格しうる能力を修得できた」「他職種と連携・協働する能力を有している」は、「[そう思う] [おおむねそう思う]」と答えた学生が93%で最も高かった。医療介護福祉学科は、すべての質問に「[そう思う] [おおむねそう思う]」と答えていた。



4. 社会人基礎力自己評価（3年次生のみ）

社会人基礎力の自己評価では、14項目中「一般的な教養」「分析力や問題解決能力」「他の人と協働して物事を行う能力」「人間関係を構築する能力」「コミュニケーションの能力」の5項目で9割以上の学生が、「大きく増えた」「増えた」と答えている。逆に、「リーダーシップの能力」「プレゼンテーションの能力」「コンピューターの操作能力」「グローバルな問題の理解」「卒業後の就職に関する準備の度合い」は「大きく増えた」「増えた」と答えた学生は約7割程度であった。中でも「プレゼンテーションの能力」「コンピューターの操作能力」は「変化なし」と答えた学生が30%程度と多かった。



5. 教育体制・支援に関する項目

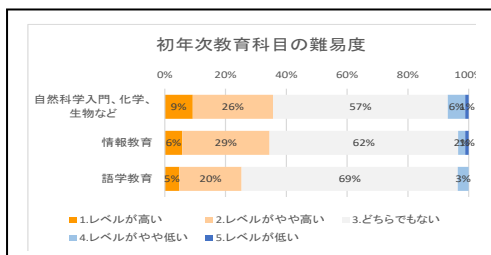
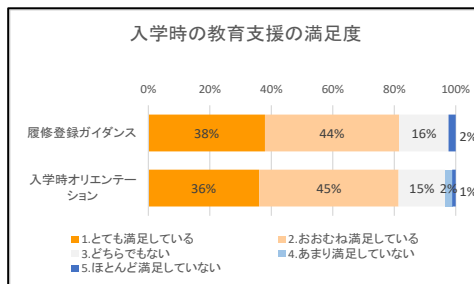
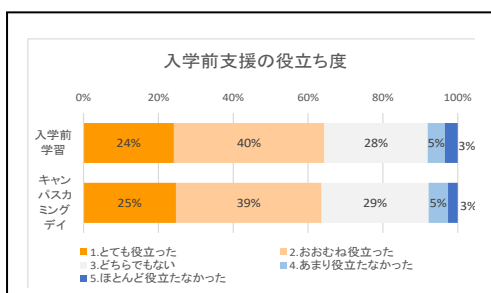
入学前支援である「入学前学習」「キャンパスカミングデイ」はどちらも64%の学生が「とても役立った」「おおむね役立った」と回答した。昨年度より役立ち度は上がったとはいえ十分な数値ではない。入学時の教育支援の満足度は、「とても満足している」「おおむね満足している」が、82%、81%と高かった。

1年次科目の「自然科学入門、化学、生物などの科目」「情報教育科目」「語学教育科目」が自分のレベルに合っていると答えたのは6～7割の学生であった。初年次教育科目である「自然科学入門、化学、生物などの科目」では、「レベルが高い」、「ややレベルが高い」と答えた学生は35%程度となっている。

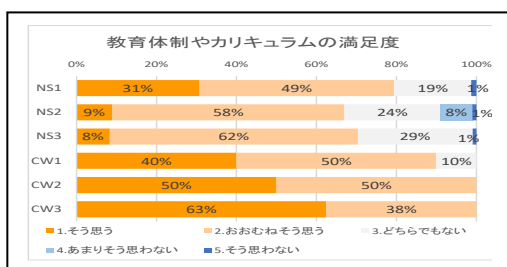
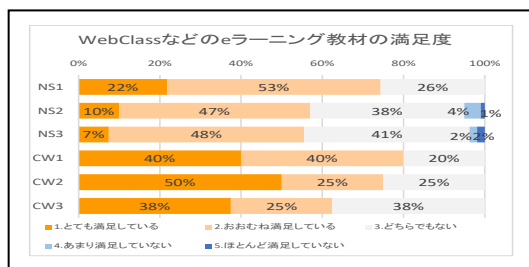
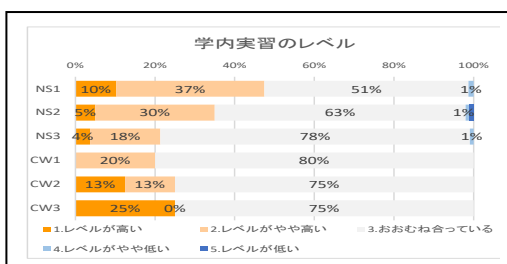
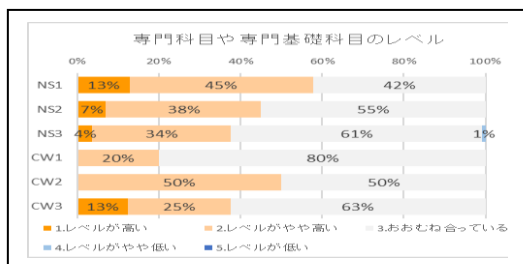
今年度は、学年毎での認識の変化に着目し全学生に調査を行った。専門基礎や専門分野の科目のレベルが、[レベルが高い] [レベルがやや高い] と答えた学生が、約2割から6割程度いた。学内実習でも2割から5割程度の学生が、レベルが高いと答えた。特に看護学科では1年次生にレベルが高いと答えた学生の傾向が強く、学年が上がるごとに低下している。

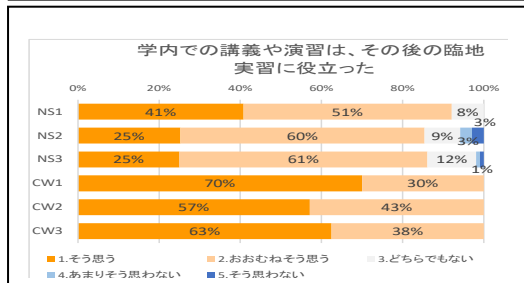
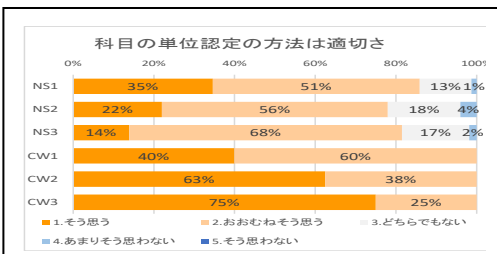
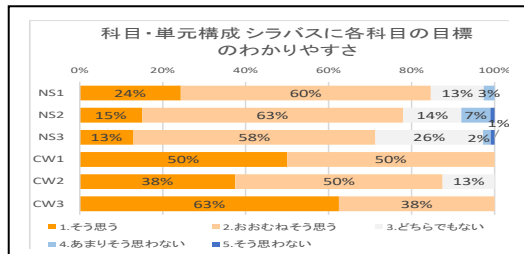
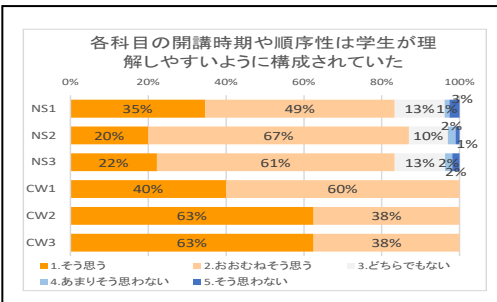
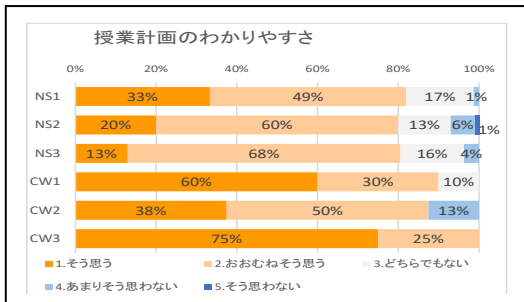
全学年共通項目での教育体制に関しては、[Web Class などの e ラーニング教材の満足度] に関しては、[満足している] [おおむね満足している] と答えた学生は1年次生では7割から8割であるが、学年が上がるごとに低くなっている。シラバスに関しては、約7割以上の学生が [わかりやすい] と答えていた。学内での講義や演習はその後の臨地実習で役立ったと答えた学生は約85%以上の学生であり、カリキュラムの構成は学生にとっては効果的であると考え。看護学科、医療介護福祉学科ともにカリキュラム評価に向けて、継続して検証していく。

1) 1年次生対象の教育体制に関する満足度（入学前支援、入学時支援、基礎分野科目）



2) 全学年対象の教育体制に関する満足度（専門基礎分野・専門分野・教育体制）





6. 学習時間調査

学習時間調査では、平均的な1日の学習時間が1～2時間が最も多いが、学年により差があることが明らかとなった。また、学期末試験中の学習時間は長いが、1週間の平均的な学習時間は長いとは言えない。学期末定期試験前の学習開始時期もバラツキが大きく、学習習慣が身につけていない学生が存在する。

